

エラー処理

eval

eval ではブロック内部でコードを実行するため、構文エラーや実行エラーが発生した場合にそれを捕捉できます。たとえば、

```
my $a = 1/0; # Illegal division by zero として処理が終了
```

のように実行エラーが発生すると処理が終了しますが、

```
eval {  
    my $a = 1/0;  
};
```

のように eval を用いると処理を継続できます。このときエラーメッセージが\$@に格納されるため、それでエラー内容を確認できます。

```
eval {  
    my $a = 1/0;  
};  
  
print $@; # Illegal division by zero と出力
```

一方でエラーがない場合には\$@は空文字列となるため、それを調べればエラーに応じた処理をできます。

```
eval {  
    # エラーを発生するかも知れない処理  
};  
  
if( $@ ) {  
    # エラーが発生した場合の処理  
}
```

die

例外を発生させられます。

```
die LIST
```

[die - perldoc.perl.org](http://perldoc.perl.org/die)

```
die 'ERROR';
```

```
die;
```

引数に文字列を指定した場合は、その文字列が標準エラー出力 (STDERR) に送られます。指定しない場合は\$@の値が用いられますが、それが空文字列ならば"Died"が代わりに送られます。